

コンクリート診断士

合格率は16%前後を推移

コンクリート診断士は日本コンクリート工学会が2001年に創設した民間資格だ。コンクリート構造物の健全性を適切な点検・調査に基づいて診断し、合理的な補修・補強を行うための技術者の養成を推進する。維持管理の重要度が増すなか、需要が高まっている。

国家資格ではないものの、難易度が高く、合格率はここ数年16%前後で推移。22年4月時点の登録者数は

1万4336人だ。勤務先の業態別では建設会社、コンサルタント会社に次いで、自治体などの登録者が多い。

国土交通省の技術者資格登録制度では、コンクリート橋や鋼橋、トンネル、道路土工構造物(シェッド・大型カルバートなど)の点検・診断業務に登録されている。

受験するには、大学卒業後4年以上、または高校卒業後8年以上のコンクリート技術に関する実務経験

などが必要となる。いずれもコンクリートに関する科目を在学中に履修していることが条件だ。コンクリート主任技士や同技士、技術士、RCCM、土木学会認定土木技術者、コンクリート構造診断士などの資格保有者ならば、学歴や実務経験を問わず受験できる。

eラーニング修了後に受験申し込み

試験日は、21年度までコロナ禍で変則的だったが22年度からは例年通りの7月に戻った。そのため、23年度は、受験者に受講が義務付けられる診断士講習の受付期間が早まり、申し込みは既に2月13日に締め切っている。

診断士講習は、学歴と保有資格のどちらに基づいて受験する場合も事前に受講する必要がある。20年度に会場での受講からeラーニングへ完全に移行した。感染対策の面だけでなく、時間や場所を選ばず受講できるなど参加しやすくなった。

受講料は、テキスト代込みで2万3000円。基礎編を約5時間、応用編を約4時間かけて学ぶ。テキストの章や節ごとに区切って受講できるので、各自のペースに応じて学べる。

試験は、受講後に発行される修了証を添えて申し込む。修了証は2年間有効だ。

■ コンクリート診断士の受験者数と合格率の推移



■ コンクリート診断士の概要

認定機関 / 資格創設年	日本コンクリート工学会 / 2001年
登録者数	1万4336人(22年4月1日時点)
講習受付期間	22年12月5日~23年2月13日
講習開催期間	23年4月7日~5月19日(eラーニング)
受講料	2万3000円(テキスト・願書代1000円を含む)
試験受付期間	23年4月3日~5月22日(願書販売期間は23年4月3日~5月10日)
試験日	23年7月23日
受験料	1万1000円
資格の登録料	7000円
試験内容	コンクリートの診断の専門知識を問う四肢択一式と記述式の筆記試験
合格率	16.0%(22年度)
問い合わせ先	日本コンクリート工学会 診断士係 TEL 03-3263-1571 URL https://www.jci-net.or.jp